

特集/オイラー

巻頭言

木村 達雄

オイラーは、1707年にスイスのパーゼルで生れた18世紀最大の数学者です。殆ど何もないところから数学を生み出すその独創性と、研究の量のすさまじさでは、人類史上最大とも言えるでしょう。研究論文は数学以外にも物理、天文学、その他にまでおよび、1911年から始まったオイラー全集の刊行もまだ完結できないほどのすごい数の論文があるのです。

佐藤超関数などの独創的な理論で知られる佐藤幹夫先生は、オイラーの数学について「なぜオイラーに惹かれるか一言では言えないけれど、オイラーは数学の殆どあらゆる分野にわたって、一番本質的なところをつかんでみせている。この点は



レオンハルト・オイラー (1707-1783).

偉い数学者がたくさんいる中でも、ちょっとほかにはいないのではないか。オイラーは学問の体系を作るというよりも、学問のもとを作っている原鉱みたいなものを次々掘り出して見せた。そういうものが本当の学問のもとを作っているんだと私は思います」と話されています。

オイラーは論文の他に著書も多いのですが、ガウスは「オイラーの著作を勉強するのは、数学のさまざまな領域における最良の訓練であって、ほかの何事にも代えがたい」と言い、ラプラスは「オイラーを読め、オイラーを読め、彼は我々すべての師匠なのだ」とすら言っています。

これだけの仕事をする人の意識というか頭の中は一体どうなっていたのでしょうか。きっと何を見ても深く観察して、何でそうなんだろうといつも考えている。寝ても覚めても、これで良いのだろうか、どう発展できるのだろうかと物事の最初のところから疑問を感じて絶えず考え続けているのでしょう。オイラーは天才にしては穏やかで円満、人と集まるのも好きな人で好奇心も凄く旺盛。色々な人と話しているところからも、その発想に刺激を与えられたようです。

さて今回はこのような魅力あふれるオイラーについての特集です。

最初はオイラーに関する著作もある黒川信重先生による「オイラー入門」で、オイラーの仕事を“根